

弘教寺



第七号



発行所

〒370-0131
伊勢崎市境米岡二七九-二
浄土真宗本願寺派弘教寺内
寺報編集部責任者 玉田 忠
電話0二七0(七四)0五七三

ことばと真実

弘教寺住職 中山 英昭

お釈迦さまが、三十五歳で悟りを開かれたのち、悟りの内容(真実)を伝えるかどうか迷われたといえます。結局、悩まれた後五十日に、「初転法輪」と言われておりますが、共に修行した五人の仲間の比丘(びく)に、悟りについて説くことになるのです。

その意味するものは、お釈迦さまが悟られた真実(真理)は、ことばで言い表わせないものだったからです。

古来、人々はことばを通じて、東洋西洋に限らず、事象や心のあり様をいかに忠実に表現するかで、苦心してきたように思います。

ことばは物事の真実を伝えたり、残したりするための手段としてあつたはずですが、ことばは真実に近いものであつたと思えます。

最近、特にことばの一人歩きの状態を感じます。真実を伝えるためでなく、虚構の自身をいかに真実のごとく見せるかというところで、ことばが使われていることを強く感じます。

政治家の政治資金の積明にしても、感心して納得できる人は、まずいないのではないで

しょうか。

また、電話をかけて、参拝の都合を伺うとき、住職であることを告げるまでは、オレオレ詐欺などの影響もあつてか、疑いのある対応となつているのを感じます。私自身も電話を通じてのセールスに対して、嘘をついてまでも断ろうとするやり取りに空しい体験をしたことが、何度もあります。そうしなければ、自らを守れない現代社会のことばの実態がそこにあります。

東井義雄先生の「ほんもの」とにせもの」といふ詩があります。

「ほんもの」とにせものは

「ほんもの」と「にせもの」は

見えないところの在り方で決まる

それだのに「にせもの」に限つて

見えるところばかりを気にし飾り

ますます「ほんとうの」にせもの」になつていく

ある大臣が、自らの命を絶たれました。政治資金の事務費に高額の飲料用イオン水が計上され、疑惑を追及されての結末であつたようです。弁明すればするほど、「ほんとうの」にせもの」となり、ことばの真実は見い出せ

なかつたように思います。真実を語つていたならば、自らの命を絶つことはなかつたのではないかと思えます。残念なことです。

歎異抄(たんにしよう)の後序に、親鸞聖人のことばとして、※「煩惱具足(ぼんのうぐそく)の凡夫(ぼんぶ)火宅無常のせかいはよるずのこと さらごとたわごとまことあることなきに ただ念仏のみぞまことにておわします」と示されておられます。

古今、ことばが真実を示すことができないう世間(社会)にあつて、「念仏のみぞまこと」と言いきれぬ、真実のせかいをより処(どころ)として安心して日々の人生を歩みたいものです。 称名

〈意識〉

「この身は煩惱具足の凡夫であり、この世は無常轉變の火宅であるから、何から何までそらごとたわごとばかりで、眞實のこととは一つもない。ただそのなかに如来から恵まれた念仏だけが眞實であらせられる。」

(百華苑刊意譯歎異抄より抜粋)

2 清涼寺式

生前の釈迦を写し取った生きた聖像



(学研社「釈迦如来」より)

祝 ◆ 仏教壮年会創立十周年記念式典 ◆



山崎先生

群馬組組長

貝塚会長

平成十九年七月三十日午後一時より弘教寺仏教壮年会創立十周年記念式典が弘教寺本堂で行われました。

来賓の群馬組組長 艸香雄道様、千葉県最誓寺住職 堀田了正様をはじめ 婦人会会長 福永君代様・婦人会の有志の方々・壮年会会員・一般の方々等 総勢六十数名の参加で盛大に行われました。

式典は小林副会長の司会で、貝塚会長の式辞・群馬組組長・弘教寺住職の祝辞に続いて、記念のご法話は、武蔵野大学教授・花小金井法善寺住職 山崎龍明師による「正信偈に学ぶ人間と救い」という講題でのお話でした。



記念法話風景

◆ご法話の内容はビデオに収めましたので貸出しご希望の方は弘教寺まで◆

山崎先生のお話は、前後半で一時間半にわたり、沢山の事例ご体験のエピソードをわかり易くお話してくださいました。一例として或る女子学生のお話がありました。彼女が学校で歎異抄を学び家に帰ってくると、農家の庭先で祖母が鶏を絞めていました。祖母に「鶏だつて生き物なのに：：」と言うと「この村ではこれをしないと生けてゆけないんだよ、私も心の中で手を合わせながらやっているんだよ。」と答えたそうです。この祖母は歎異抄の心で生きておられることを、彼女は気づかれました。

このように分りやすいお話を沢山盛り込んだご法話で、もつともつと聞かせていただきました。思い出でした。

このあと恩徳讃を唱和、閉会の挨拶を玉田副会長が行い、式典を終了しました。

その後、会場を移動し、それぞれの想いを語らいながら十周年の行事を終了しました。

(玉田)



記念撮影



◆ 祝賀会 ◆

世のなか 安穩(あんのん)なれ

仏教壮年会創立十周年に想う

◆現会長 貝塚 俊市◆



親鸞聖人の「み教え」を仰ぎ、壮年の信仰を確立し教養を高めると共に、会員相互の親睦を図ることを目的とし創立された、弘教寺仏教壮年会は今年で早や十周年を迎えました。

十年一昔と言いますが、過ぎてみれば短かったように感じます。これはまさに会員の皆様のご協力により、諸活動が毎年継続的に行われてきたからだと思えます。

東京教区内でも多くの仏壮活動が行われておりますが、弘教寺の壮年会がどの会合へ参加しても誇れることは、毎回実のある充実した内容で諸活動がなされてきたと言うことではないかと思えます。

壮年会は親鸞聖人の「み教え」を真摯に学ばせて頂き、自らお念仏の道を歩む会ですが今後もご住職と吉田事務局長のご指導、ご助言のもと、更に充実した活動を行って行きたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

◆初代会長 田中 岩男◆



弘教寺仏教壮年会の十周年記念行事も盛会に終わり、振り返ってみると長いようで短かった気がします。想い起こせば、仏教壮年会を

始めるからと、ご住職に誘われて何も知らずに入会し、その後組織化に伴い、会長を依頼され、微力ながら引き受ける事になりました。当時の私は弘教寺の事もよく知らず、ご住職に言われた事だけをして来たように思います。そんな中、ご住職の仏壮に対する熱意から会員も増え、研修会のお蔭で聴聞もでき、又、研修終了後の食事を通じ、会員の意志疎通が計られた事は、大変大きな収穫であったと思えます。

◆前会長 伊部 芳夫◆



ご住職の「門信徒の皆さんが、気軽にお寺に来て、話をしたり、聞いたりして、相互の親睦を図りましょう。」との呼びかけで、平成九年九月に四十一名でスタートした壮年会が、この度十周年を迎え、ご本堂で、盛大な式典が行われました。多くの先生方にご教導いただき、ここまでできましたことに、改めて感謝申し上げます。振り返りますと、五周年の式典挨拶で「若い人たちにたくさん入会してほしい、お寺の行事に積極的に参加できる会にしたい。」と願った課題が、現会長のもと着実に成果を挙げているように思います。

私自身健康に留意し、少しでも協力できるように、今後ともがんばりたいと思えます。

弘教寺ゴルフ会「活動便り」

仏教壮年会のゴルフ愛好者で、平成十六年に発足した弘教寺ゴルフ会も三年がすぎ、春と秋の定例コンペが五回を数えました。

今年の九月は、境ライオンズ主催によるチャリティゴルフ大会に協賛し、弘教寺ゴルフ会第六回コンペとなりました。又、群馬組の群馬会コンペが毎年春と秋に行われますので、我々の会員から必ず四、五名が参加して上位の賞をめざして頑張っております。

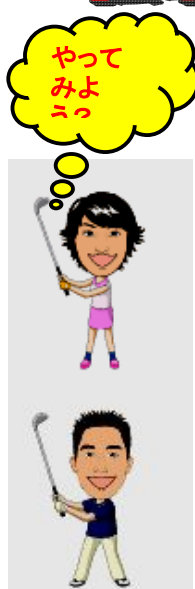


上武ゴルフ場にて

三年前、発足時に初めてゴルフクラブを握って始めた人でも今では100を切るスコアーの人もいます。

現在、ゴルフ会のメンバーは二十八名で、大変和やかな雰囲気です。

門信徒の皆さんも若さと健康維持のために、ゴルフ会に多数の新規ご加入をお待ちしております。(ゴルフ会幹事 佐藤)



『あなたはあなたでいいの』

金子みすゞの世界!

群馬組仏婦連盟総会報告

弘教寺仏婦会長 福永 君代

「記念講演風景」



去る六月十五日 群馬組仏婦連盟総会が弘教寺で開催され、百六十余名の参加者を頂き盛大に行われました。記念講演は矢崎節夫先生(金子みすゞを世にだした児童文学者)をお

迎えし「金子みすゞの世界」のお話をいただき、あらためてみすゞの奥の深い感性に気づかされ、感動の一時半でした。

矢崎先生によつて金子みすゞの詩の世界が現在に蘇(よみがえ)り、多くの人の心にやさしく、温かく受け入れられていると思えます。「わたしと小鳥とすゞと、みんなちがってみんないい」と言う詩が、以前からとても好きでしたが、もつと他の詩にも出合いたいと思うようになり、当日買い求めた「おひさん、あめさん」の絵本を七歳になる外孫と、声を出して読み、楽しんでいきます。

これからも、お聴聞を重ね、お念仏薫る日々を、心豊かに生きたいと願っています。

◆この人◆「中山ハルエ」さん(伊勢崎市)

大正十三年境町で生まれ、子どもの頃、母が隣近所の人と連れ立って「ほんこさま」と言つて寺参りをするのを見て育ちました。

境町の学校卒業後東京三越に就職、戦争が激しくなつて境町に戻り、結婚し一女一男をもうけられました。

昭和四十七年に弘教寺婦人会の結成と共に入会、毎月の例会では前坊守さんのご指導のもと、当番制で料理を作りました。冷やし中華、カレーライスが好評でした。岩瀬会長

ときに副会長・会計を八年勤められました。昭和五十二年五月に長女の結婚、その年の十月にご主人が五十三歳で亡くなられ、月命日のお参りもふくめお寺に足を運ぶことが多くなつたようです。

八十三歳になられた今でもシルバーカーを押しながら仏婦に通い、エコクラブの会にも入つてマスコット作りにはげんでいます。「お寺に行くのがたのしみですね。」と、



にこやかに、控えめなお人柄をにじませながら語ってくれました。(玉田)

◆行事予定◆ (平成19年9月~平成19年12月)

月別	弘教寺の行事予定	教区・群馬組の行事予定
9月	4日 弘教寺ゴルフコンペ(第6回)	組内会
	9日 壮年会例会	
	23日 秋彼岸	18日 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要
	28日 婦人会例会	29日 組連研
10月		2日 群馬組ピハハラ
	14~19日 婦人会ユカレリ~ハワイ旅行	9日 教区仏婦50周年記念大会
	26日 婦人会例会	16日 組基推委員会・相談員協議会
11月	4日 壮年会例会	
	20日 婦人会例会	11~16日 築地本願寺 報恩講法要
12月	1日 合同報恩講(お寺deコンサート)	
	2日 報恩講法要	
	18日 婦人会例会	

記録的な猛暑の中での執筆ありがとうございました。七十四年ぶりに40・9℃と更新した為か大阪では日本選手がSBも出せず苦戦ですね。そんな中でミセスのハンドがある土佐礼子さんの、ラスト3Kmの競技姿勢には感動させられました。メインポールに国旗を掲げる人には言葉でなくほんものの姿勢が感じとれます。橋本

※SBは今シリーズのベスト記録の略